

	シーズ名	森林生態系の構造と機能
	氏名・所属・役職	名波哲・理学研究科 生物地球系専攻・准教授

<概要>

森林群集における植物の種多様性維持機構を説明するため、植物個体間の相互作用に注目している。固着性生物である植物においては、群集の空間構造を考慮することが重要であると考え、空間構造の形成過程に関わる植物の生活史特性、特に繁殖特性、ならびに形成された空間構造が逆に生活史特性に及ぼす効果について研究を進めている。国内では照葉樹林を主なフィールドとし、研究事例の少ない雌雄異株植物を対象にしている。また森林保全の立場から、森林内に侵入しつつある外来植物の個体群動態の研究も進めており、実証的かつ理論的に森林保全についての提言を行うことを目指している。マレーシアボルネオ島の熱帯多雨林においては、樹木の極めて高い種多様性の創出と維持のメカニズムの迫るため、花粉媒介による遺伝子流動の範囲の違いに依存して、個体群内の遺伝的分集団化の程度が異なる、という仮説のもと、花粉媒介様式の異なるフタバガキ科樹種の比較研究を進めている。



東南アジアの熱帯多雨林



日本の照葉樹林



性転換する樹木、ウリハダカエデ



外来樹種ナンキンハゼ

<アピールポイント>

森林を構成する高木種は、その体の大きさと寿命の長さから生態系の骨格を作り上げる生物である。高木種が集団を維持することにより、動物にとっての食物資源や住み場所場所が提供される。森林はまた、水源涵養機能や二酸化炭素固定機能などを通じて環境を制御している。森林生態系の構造と機能を明らかにすることは、私たち人間にとって住みよい環境の長期的・安定的な保証につながる。

<利用・用途・応用分野>

森林保全、自然保護、環境教育など。

<関連するURL>

<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/biol/pecol/pecol.html>

<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/biol/file/lab/pecol.pdf>

キーワード	植物、樹木、生物多様性
-------	-------------